



平成24年の「未来への翼イタリア研修」は「イタリアの最も美しい村協会」の協力をいただき実施しました



平成26年の全国フェスティバルで復興への決意を表明する県内の加盟4町村。左端が菅野村長

平成26年の福島宣言
震災以降、連合から、あるいは加盟町村・地域から、村は多くの支援・応援をいただけてきました。村は、全村避難中に、5年毎に行われる加盟資格の再審査を迎えましたが、現状を踏まえた上で加盟の継続を認められています。平成26年に北塩原村で行われた全国規模のフェスティバルでは、県内の加盟4町村が「福島宣言」を行い、支援に感謝を伝え、復興への決意を表明しました。



宿泊体験館「きこり」での交流会のようす。各町村・地域の首長に、地域づくりで大切にしていることや、特色ある取り組みなどをお話いただきました



3人の村民の方に事例発表を行っていただきました。また、記録映像の上映や視察を通して、震災以降のできごとや、復興のようすなどを見ていただきました

熱き思いを分かち合うー



村との関わりや協定に基づく活動などを発表した福島大学が、参加者に「かぼちゃまんじゅう」と甘酒をふるまってくださいました

総会の後は、事例発表や基調講演などが行われました。昨年10月に加盟したばかりの青森県佐井村は、漁業を基幹産業とする「美しい村」。「日本で最も小さくかわいい漁村」を目指し、行政と村民が協働して行っている取り組みについて発表しました。「佐井村にしかない資源を生かす」という視点から、「漁師の縁組み事業」や「養殖ワカメのオーナー制度」など、工夫を凝らした事業の数々を行って、将来に向けたビジョンやアクションプランの策定にも取り組んでいるそうです。立教大学特任教授の亀井善太郎先生による基調講演では、「対話」を大切にしようという提言をいただきました。互いの正論をぶつけ合い「協議」をするよりも、「対話」でいくつもの正解を語り合うことから、よりよい答えが導き出せるのでは。この講演を聞いた村職員の1人は、「震災前の飯館村の村づくりを思い出して、熱い思いがフツフツとわいて来るのを感じた」と話していました。交流会でも、「肩肘はらずに、あるものを生かしていきたい」「現状を認めて何をすればよいかを考えていく」「『未来』は『過去』にある。継承を大事にしたい」など、それぞれの町村・地区が大切にしている地域づくりの理念が語られていました。



「美しい村」飯館村ならではのあり方を見つけていきましょう



「いいたて村の道の駅までい館」での特産品販売（上の写真）、ふるさと納税の返礼品の提供など、村は多方面で「美しい村」の惜しみない協力に支えられています

会議の中で、「光は東北から」という言葉が語られていました。東北ブロックの取り組みを広く発信しようという心意気を表す言葉です。また、会議や交流の中で語られた「美しい村」のあり方には、三者三様それぞれ素晴らしさがありました。飯館村も、復興の先に目指す、私たちならではの「美しい村」のあり方を話し合い、見つけていきたいと思います。会議に参加した他町村の方々から「飯館村の皆さんが頑張っているように、元気をもらい、やる気が出ました」と、「共に歩もう」というエールも数多くいただきました。